
弱虫と偽物

カスケードレインジの右手のアレ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

弱虫と偽物

【Nコード】

N5266Z

【作者名】

カスケードレインジの右手のアレ

【あらすじ】

偽物に拘り、努力を続ける弱虫のハナシ

初投稿です。

未熟者ですが感想、批判など書いて頂ければ非常に嬉しいです。

（前書き）

文がグダグダ過ぎて誠に申し訳ありません。
・・・原作の雰囲気が出ない・・・

耳障りなアラートがけたたましく鳴り響く。

コンデンサ内のエネルギーを使い果たした漆黒の機体が重力に捕まり、落下していく。

無様に地面に叩き付けられた機体に次々と重金属の弾丸がたたき込まれ、装甲を削る。

それでも尚敵を捉えようとした彼の目に飛び込んだのは左腕を振り上げた黄色い鋼の巨人だった。

直後に激しい衝撃が彼を襲い、網膜に映し出される映像が途切れる。

「また負けた・・・」

彼は力なく呟く。

「そうね。これで6連敗よ。」

ヘルメットのレシーバーから管制官の声が聞こえる。「もう一度、もう一度頼む。」

「はあ、あのねえいい加減休みなさい。いくらプラスでももう集中力が持たないわよ。」

もう数時間シミュレーターに籠もりっぱなしの彼を気遣い、管制官は制止する。「いや、もっと頑張らないと、もっと強くないと・・・」

しかし、彼は食い下がる。「・・・あなたの気持ちもわかるけど、フラフラのあんたを担がされるこっちのみにもなつてよ。」

「うう・・・判ったよ。」このままではまたいつかのように説教無限ループに入る恐れを感じた彼は渋々諦める。

神経接続を解除しハーネスを外す。

ハッチを開放し、シミュレーターから這い出す。

「全く、熱心なのはいいけどもう少し加減なさい。」

管制官からのお叱りが耳に痛い。

「いや、でも・・・」

「あんたがどつかの誰かに憧れてるとか、足手まといは嫌だと思ってるのは解るけど付き合わされるこっちのことも考えなさい。」

「いや、付き合ってくれと言も言ってる」

「あんた1人でほつといたらまたどつかで遭難するでしょうが！！」
早口に言うこの管制官、詰まりツンデレである。

「それより、あのポンコツいい加減なんとかすれば？あんなアセン
Ja」

「それはダメ！！アレじゃなきゃいみないんだ！！」珍しく声を荒げる彼。

「ハイハイ、あんたは本当にジノーヴィーのことになる・・・」
「だつて」

「分かったから、どうせ明日もやるんでしょ、とつとと寝なさい。」

「・・・うん、わかったよ。」

自室にとぼとぼと歩いていく彼。

「全く・・・あんたは弱虫なんかじゃないわよ。」

「ふえ、なんて？」

「な、何でもないわよ！とつとと寝なさい！！」

「は、ハイ！只今！」

管制官の勢いに負けた彼、モリ・カドルは何故彼女の機嫌を損ねたかわからないが、速やかに戦域を離脱した。

（後書き）

感想・指摘等していただければ非常に、非常に嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5266z/>

弱虫と偽物

2011年12月17日21時48分発行